
すくうるでいず！

焰水無月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

すくうるでいず！

【Nコード】

N3425Z

【作者名】

焰水無月

【あらすじ】

主人公が何だかかわいそうな扱いです。
大体慌てて自爆します（笑）

【登場人物紹介】 随時追加（前書き）

登場人物紹介です（。・）

【登場人物紹介】 随時追加

嵯峨野彰（さかの あき）

一人称『俺』

二人称『お前』

色んな知識が浅く広い。

よく無意識に墓穴を掘る。

斎藤拓海（さいとう たくみ）

一人称『僕』

二人称『お前』

彰とは中学から一緒。

口が悪い以外は完璧。

樺牧潤（かまき じゅん）

一人称『オレ』

二人称『君』

超能力、怪奇現象大好き。

（自称）悪魔遣い

矢崎智駕（やざき ともか）

一人称『ボク』

二人称『キミ』

生粋の男好き。

男を口説くスキルは神の域。

緋威雅俊（あかい まさとし）

一人称『俺』

二人称『貴様 / お前』

ジャンプは毎週立ち読み。
名言をやたらと使いたがる。

今後、増えることに随時追加予定です。

【登場人物紹介】 随時追加（後書き）

時々増えるよ。

一 限目（前書き）

第一話なう（）。。（；）

一 限目

今日は麻夏高校の入学式だ。

初のLHRとして自己紹介の真つ最中。

俺は『嵯野彰さかのあきです。これからよろしくお願いします』の二文で済ませたから、あとは聞いているだけ …

「空帝中学から来た樺牧潤かまきじゅんです」

……今、若干語尾に『 』的なものがついたような…。

「普通の人間に興味はないんで、それ以外の人だけ話し掛けて下さい」

何だ、こいつ！

微妙に変えて、あたかも自分が考えたセリフかのように…！？

「……………えー、次の者」

ほら！ 先生がめっちゃ反応に困ってるよ！？

「鷹野中学から。 矢崎智駕やまきともか。 ……男子力モン& amp; ウェルカ

ム（。 。 ）「」

……………うん、聞かなかった事にしようかな。

「……………つつ、次…、最後の者」

大丈夫か先生！ 初日にしてこの衝撃は大き過ぎますよね！！

「笹乃中学から来た。 緋威雅俊だ」
あかい まさとし

流石に最後の奴はマトモ …

「自己紹介を聞いてて思った事…、『駄目だこいつ（ら）… 早く
なんとかしないと…』…だ」

お前も『こいつ（ら）』ってところに含まれるからな！？
二言目が余計なんだよ！！
ってか、何だこのクラス！
変人三人は多すぎだろ！！

「え？ 魔法出せんのか？ 見せて見せて！！」
「…ん…、君…中々可愛いじゃないか。 どう？ 今週末、デートで
も」

「『バルス！』」

すっげー目立ってる！
悪い意味でだけどな！！

「おい、アキ」

「……………」

「アキ！」

「……………」

「…嗟・峨・野・彰いつ！！」

「何だよ？」

「僕を無視するとは…、いい度胸じゃないか」

「そういえば…」(鬼畜)眼鏡「だったっけ？ 中学の時のあだ名」
「うるさい！ 僕にはちゃんと齋藤拓海さいとうたくみという名前がだな…！」
「あー、ハイハイ」

こいつは口が悪い事を除けば、完璧なんだけどなあ。

「ねえ、君」

「っ!?!?」

いきなりハ ヒパクリの奴来たー!!

「千里眼を持つてるって話、本当!?!?」

「誰だよ！ そんなデマ流したのは!?!?」

あつ！ 窓際の奴、目え逸らしやがった!!

面倒くさくなつたから、適当な事言つて逃げたな!?!?

「おー、あーる、ぜつと」

うおつ！ いつの間に!?!?

「それは俺のセリフだ！ あと、普通の奴が聞いても分からないかな！ その言葉の意味!?!?」

「『大丈夫だ、問題ない』」

「その発言に問題あり!?!?」

続けて二人も来んじやねえよ！
対応追いつかねえ!?!?

「君さあ」

更に三人目まで!!?」

「突っ込むのと突っ込まれるの…どっちが好き?」

「状況見て察しろよ! 突っ込むしか選択肢ねえだろ!!」

「ちょ、アキお前! その勘違いはお約束過ぎるぞ!!」

あ? 拓海は一体何が言いたいんだよ…。

「(ブツブツ…) そんな強気な攻を押し倒すのもまた… (ブツブツ…)

「アキいっ! いいか!? 今日帰りは僕と帰るんだぞ!? 分かっただな!!?」

どうしたんだ、そんなに焦るなんて…?

「せえーんーりーいーがあーんーはあー!?!」

「だー! もっつるせえ!!」

「こんなクラスで俺、やってけるのか…? ……? ……と思いにふける

嵯峨野彰、高校一年の春」

「マジで思ってた事先に言うなあああっ!!」

一 限目（後書き）

何て濃いメンツだよ…。

2 限目(前書き)

LHR後なう)・・・(

2 限目

「くあ…っ。 んー、何かすげー疲れたなあ…」

あの三人は無いわー。

個性的とか、そんな生ぬるいもんじゃ表せねえよ。

あれだ…、その、最早別次元の奴らだよ。

「アキ！ もう放課だぞ？」

「あ？」

……………マジか。

いつの間にこんなに時間が…。

「さ、約束通り…一緒に帰ろうか？ アキちゃん」

「矢崎！？ どっから湧き出てきやがった！！」

「アキちゃんだとおっ！？ 気安くあだ名で呼ぶなあっ！！」

「待て拓海、それは俺のセリフだと思っぞ？」

「男の嫉妬は見苦しいよ？」

「何故だっ！ 何故僕だけ注意されてるんだ！！」

何キレてんだよ。

「人前だから見せられなかったんだろ！？ 今なら誰もいないから千里眼使っつて見せてよ！！」

「チイツ！ まだ覚えてたか！」

あの後、適当にかわして逃げ切ったと思っつたのに…！
っつーか、急に現れんな！！

「べっ、別にあんたと帰るために待ってたんじゃ…ないんだからね!」

「……キモい」

「満場一致!」

「……ないわー」

「酷すぎないか!」

うん、二人来たから…予想はしてたけどね。

……予想以上の破壊力だった。

「もう、こんな奴ら無視して、帰ってゲームしようぜ? アキ」

「ああ、そうだな」

「ゲーム? …それならボクの一番オススメのゲームを貸してあげるよ?」

「却下だ却下! お前の趣味のゲームなど、聞きたくもない」

「もー、たくみんさあ、そんな怖い顔しないで聞いてみなって」

「樺牧、お前は……って、たくみん!」

「ブツ……ッ、ッッ!」

「おいコラ、何笑ってたんだ? アキ……」

たくみん…、たくみん、か。
クツ…、ヤバ、笑いが…。

「樺牧…、貴様、空気を読めないのか？　というか、空気という存在を知っているか…！？」

「空気？　気体のことだろ？」

「『場の空気』だ馬鹿者！！」

おお…この二人、中々いいコンビじゃねーか。

「で、ボクのおススメのゲームはこれなんだ」

「『オ ルタ ー沈黙の掟』…？聞いたことないゲームだな」

「新しい境地を開拓できると思うよ？」

何か、外装はいい感じだな。

マフィアか…。

そついうの好きだし、貸してもらおうか。

「ちよーっと待ったあっ！！　アキたんにはこっちの方が良いと思うけどー！」

……………あ、アキたん…？

「これこれ！　『うたの　プリンスさまっ　Debut』…！」

「…これ…乙女ゲームじゃ…」

俺でも知ってるぞ…。

中学の時、女子がやたらと騒いでたからな。

「大丈夫夫！ データ改造して、男子キャラクターは全員オレにな
ってるから！！」

「へえ……………、……………つてえ、はいい！？ 何が『大丈夫夫』だよ！
犯罪だろ！ あと、何の解決にもなつてねえ！！」

コイツは根本的に矯正しないと、マジでヤバイ…！

「俺のオススメはコ…」

「さ、早く帰ってボクのゲームしようよ」

「ダメー！ たくみんはオレのゲームをするんだあああつ！」

「お、俺のオス…」

「責様らは少し黙れ！」

「お前はまず俺から離れる拓海いっ！ 気持ち悪い！ひつつくな

あああ！！」

「……………お…、お」

「……………黙ってて！……………」

「酷っ！！」

《ちなみに…》

緋威が持っていたのは『たまごっち（初代ver.）』でした。

2 限目（後書き）

何かどたばたした感じになってしまったorz

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3425z/>

すくうるでいず！

2011年12月28日02時00分発行